



羽田ミヤコタナゴ通信

通信

8月1日の創刊号発行後、多くの方々にミヤコタナゴ再導入に向けた取り組みについて、知っていただくことになりました。今までは、関係者だけで行ってきました活動等についても、地域の方々が加わることでより活発となり、さらに一層、ミヤコタナゴ再導入に向けた取り組みに勢いがつき、より良い方向へ向かうことへつながっていくものと考えております。

ミヤコタナゴが、生息できる環境を復元することは、そう簡単なことではないことは、皆様もご存知だと思います。水槽で繁殖させることは簡単な魚ですが、自然界では様々な要因が重なり、繁殖することが非常に難しい魚でもあります。その為、自然界からは次第に姿を消し、天然記念物にまでなっていました。しかしかつては関東に広く分布して「オシャラクブナ」など、地域によっていろいろな呼び名が残っているように、親しみのある魚であったことは確かです。

羽田小学校の南側の水田から小学校を望むと、そこにはかつての日本の農村風景の原点が見えるような気がします。地域の方々が、ミヤコタナゴを地域資源として認識し、「ミヤコタナゴが見たければうちの地域にいるよ。おいでよ、うちの地域の宝を見せてあげるよ」と言えるようになることを願い、今後の活動に取り組んでいきます。

トピック

- 1 マツカサガイの稚貝を試験的に導入しました！
- 2 生き物観察会が開催されました
- 3 宇都宮大学とミヤコタナゴ
- 4 セルビン調査結果について
- 5 ミヤコタナゴ生息水路の水質は？
- 6 今後の活動について



平成28年8月21日の生き物観察会の一コマ
～「魚よ魚、出てコ～イ」～

1 マツカサガイの稚貝を試験的に導入しました！

平成27年6月と7月にマツカサガイの稚貝の導入を試みたところ、8ヶ月後の3月に十数ミリに育った稚貝が確認されました（写真1）。そこで、平成28年度も羽田生息地におけるマツカサガイ稚貝の成長と定着を確認するため、引き続き稚貝の導入を試みました。

稚貝の導入は、平成28年7月25日から28日にかけて同水系産マツカサガイから得られた幼生（稚貝になる前の状態 写真2）をヨシノボリ（写真3）に人為的に寄生させ、羽田生息地水路へ設置した籠に入れ（写真4）、魚から稚貝を離脱させることで行いました。

導入した稚貝の総数は、9,200個体と推定されました。また、水産試験場内で得られた推定3,400個体の稚貝を小砂利の入った種糊（たねもみ）ネットに収容し、羽田生息地水路へ設置して導入する方法にもチャレンジしています（写真5）。

3月には、稚貝の成長や定着を確認するため、生息状況調査を実施する予定です。
（栃木県水産試験場 綱川 孝俊）



写真1 確認された稚貝

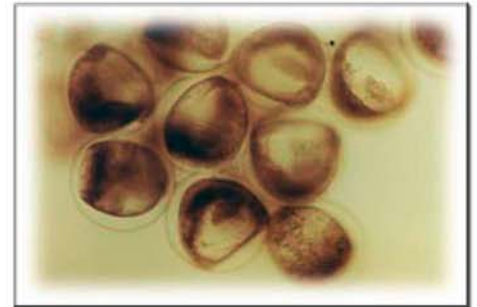


写真2 グロキディウム幼生



写真4 設置・導入作業



写真5 ネット試験



写真3 ヨシノボリ

2 生き物観察会が開催されました

平成28年8月21日（日）に、羽田環境保全会による生き物調査が開催されました。身近な水路にどのような生き物が生息しているかを、子供たちが中心となって調査を行いました。調査の結果、ギンブナやメダカ、タイコウチなど15種類の生き物を確認することができました。

また、生き物観察会に合わせて、6月に試験放流したミヤコタナゴの生息状況を確認するために、子供たちの力をかり、セルビン調査も実施しました。

調査の結果、5尾のミヤコタナゴが確認されました。確認されたミヤコタナゴの1尾には、水産試験場で付けたマーク（標識）が確認されなかったことから、羽田の水路で生まれて成長したミヤコタナゴでした。

参加した子供たちは、「この生き物はタモロコ、これはドジョウ」などと、専門家顔負けの能力で調査を行っておりました。今後の調査は、子供たちが大活躍しそうな感じです。



3 宇都宮大学とミヤコタナゴ

《羽田ミヤコタナゴ再導入に向けた協議会のメンバーである、宇都宮大学教育学部上田教授に、大学での活動の一端について寄稿いただきました。》

～寄稿文～

目指すところは、水路に安定したミヤコタナゴの生息を取り戻すことにあります。何年も続いたミヤコタナゴのいない暗闇の中から、一筋の光を頼りに、保存会の皆様を中心に前向きな取り組みが進められ、確かに間違いなくゴールに近づいているように感じます。居心地の良い我が里に思いを馳せてか、羽田沿向こう岸の整備が始められているとのこと。景観にまで及び気配りには感心しています。ミヤコタナゴは何千年もの間私たち日本人と共に暮らしてきた仲間で、「自然と人間の共生」の意味を知る上で掛替えのない存在です。

「自然と人間の共生」の重要性を共有することが、生息地の保全への近道との信念があり、指導する先生方にかかる苦勞を顧みない身勝手な提案にもかかわらず、国、栃木県をはじめ多くの方々のご理解とご協力によって、附属特別支援学校でのミヤコタナゴの飼育が実現しました。慰めか、言い訳に聞こえるかもしれませんが、飼育を通じたミヤコタナゴの理解、「共生」の重要性の理解の広がりを感じています。

「共生」の重要性を多くの人々が共感、共有できたとき、ミヤコタナゴは水路に定着していることでしょう。子どもたちの健やかな成長を願いながら、数年後にミヤコタナゴで賑わう水路を自慢気に指差す皆様の姿を夢見ています。

(宇都宮大学 教育学部教授 上田高嘉)



特別支援学校での飼育の様子



宇都宮中央女子高等学校生物部との交流

4 セルピン調査結果について

平成28年10月14日(金)と15日(土)の2日間、環境省や栃木県、大田原市、地元保存会の皆様ほかと、羽田ミヤコタナゴ生息地保護区のミヤコタナゴの生息状況を調査しました。

調査の方法は、ミヤコタナゴの生息水路内に51個のセルピンを設置し、約1時間半後に回収して、セルピンの中に入った生きものの種類と数を記録するというものです。調査を行った2日間はお天気にも恵まれ、特に1日目には地元保存会や関係機関のほか、羽田小学校の5年生の児童も参加し、たくさんの魚たちを観察することができました。

ミヤコタナゴは1日目に45匹、2日目に31匹確認することができ、現在、羽田には推定162匹のミヤコタナゴが生息することが分かりました。しかし、生息調査で確認できたミヤコタナゴのほとんどが平成28年6月に放流したミヤコタナゴで、羽田生まれのミヤコタナゴは6匹、そのうち、今年生まれたと思われるミヤコタナゴは1匹だけだったので、これから、どうしたら羽田生まれのミヤコタナゴを増やしていけるのかが課題になっています。

(栃木県 森林環境部 自然環境課 金澤悦子)



調査開始!!



この魚は何かな?



確認されたミヤコタナゴ

5 ミヤコタナゴの生息水路の水質は？

協議会の発足と同時に、ミヤコタナゴが生息できる環境をモニタリングするために、水質、水温のデータを収集する取り組みを始めました。協議会では、定期的に報告しておりましたが、今後、ミヤコタナゴ通信の中で、ミヤコタナゴが生息している環境の現状について、お知らせしていきます。

水質については、pH、BOD、DO、アンモニア態窒素、亜硝酸態窒素、硝酸態窒素、SS、リン酸イオンの8項目について、定期的に採水を行って、専門の分析機関で分析を行っています。水質は、羽田だけでなく、ミヤコタナゴが生息している他の地域についてもあわせて調べています。また、水温については、ミヤコタナゴの生息水路2か所、羽田沼2カ所に水温ロガーを設置し、1時間毎に記録しています。

当初、水質がミヤコタナゴの生息に影響していると言われておりましたが、調べていくうちに、水質だけでなく水温の日変動(一日の水温差)も影響している事がしだいに明らかになり始めました。

今後もミヤコタナゴ再導入の為に、継続してデータを収集し、今後の対策等に活用していきます。



図1 水質モニタリング(項目：BDO)経年変化

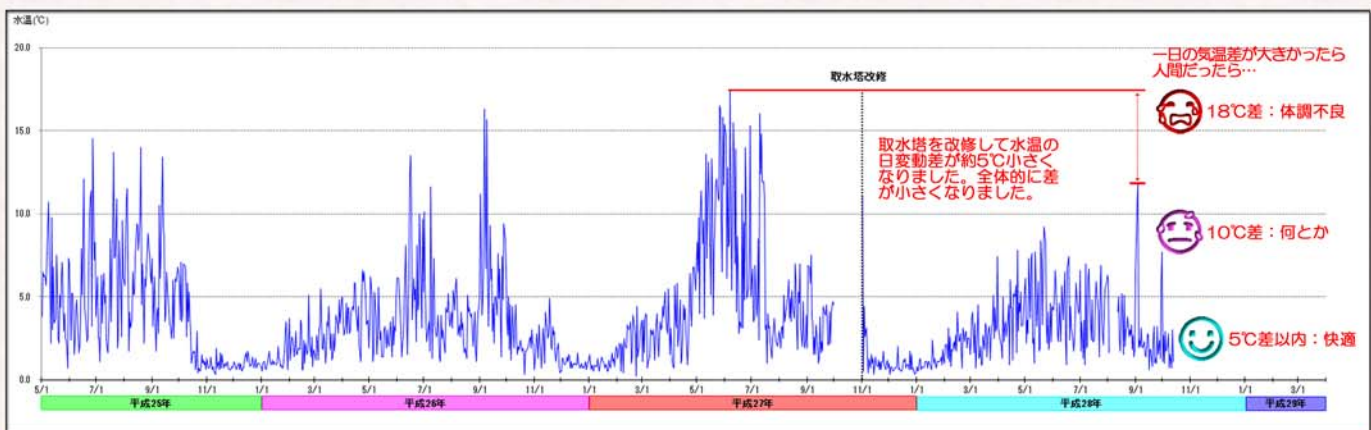


図2 生息水路水温モニタリング(項目：日変動)経年変化

6 今後の活動等について

○生息環境の整備

冬から早春にかけて、今まで得られたデータ等をもとに、よりミヤコタナゴやマツカサガイが生息しやすい環境を整えるために、水路の補修や水路の泥上げ、取水塔の改良を実施します。

○ミヤコタナゴ生息調査

2月下旬から3月上旬に、ミヤコタナゴの生存を確認するためにセルピン調査を実施します。

○稚貝調査

7月に稚貝を導入しましたが、その後の生息状況を把握するため、2月下旬から3月上旬の頃、水路内の砂利等をすくい上げ、稚貝の定着状況を調査します。

問い合わせ先：大田原市文化振興課文化財係
 TEL 0287-98-3768
 FAX 0287-98-7124
 E-mail bunka@city.ohtawara.tochigi.jp